

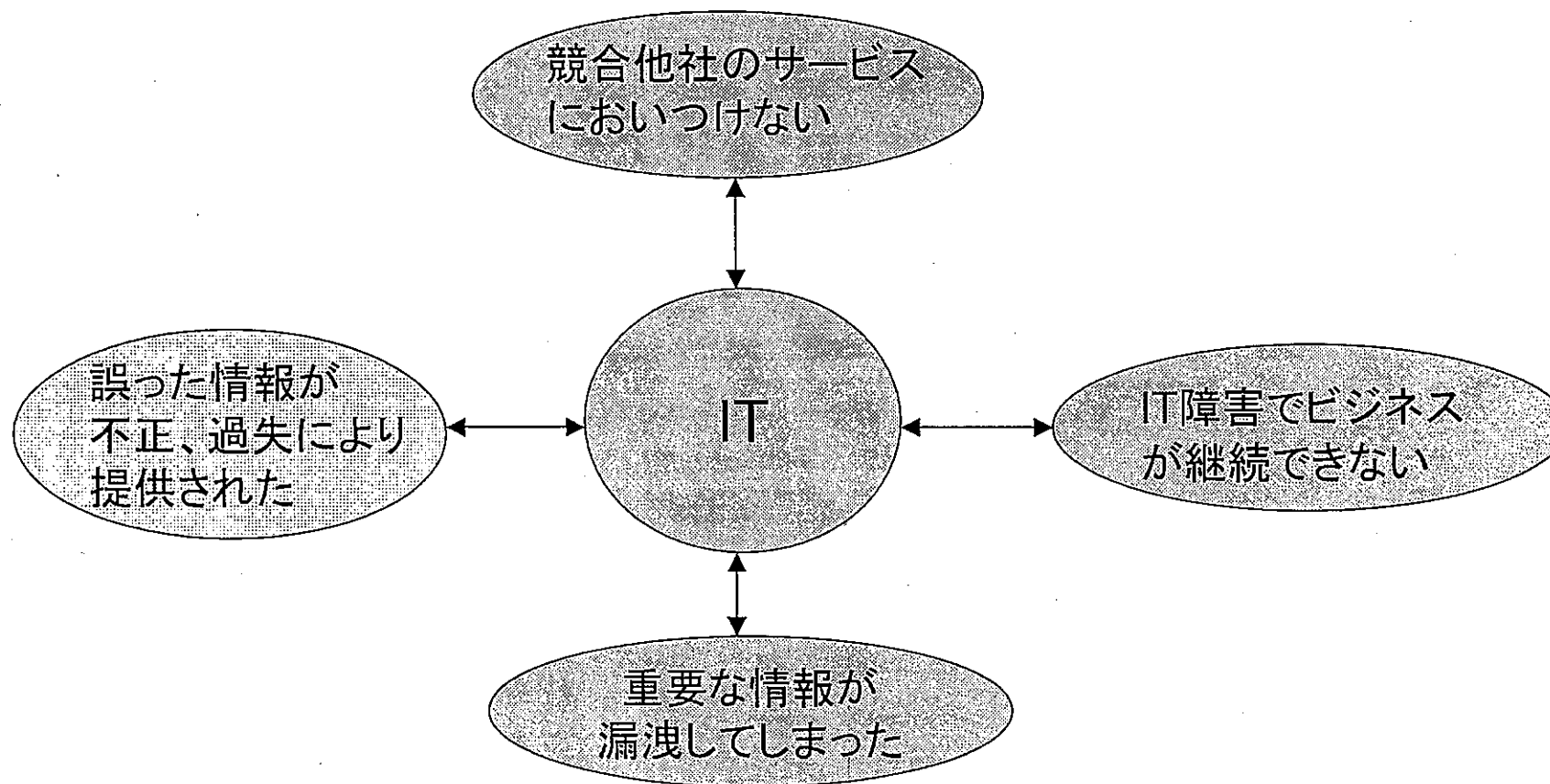
IT統制の監査

重要性、問題事例、ポイント

中央青山監査法人

代表社員 松尾 明

なぜIT統制が重要なのか



いずれもが統制の弱さから企業の存続を危うくする問題

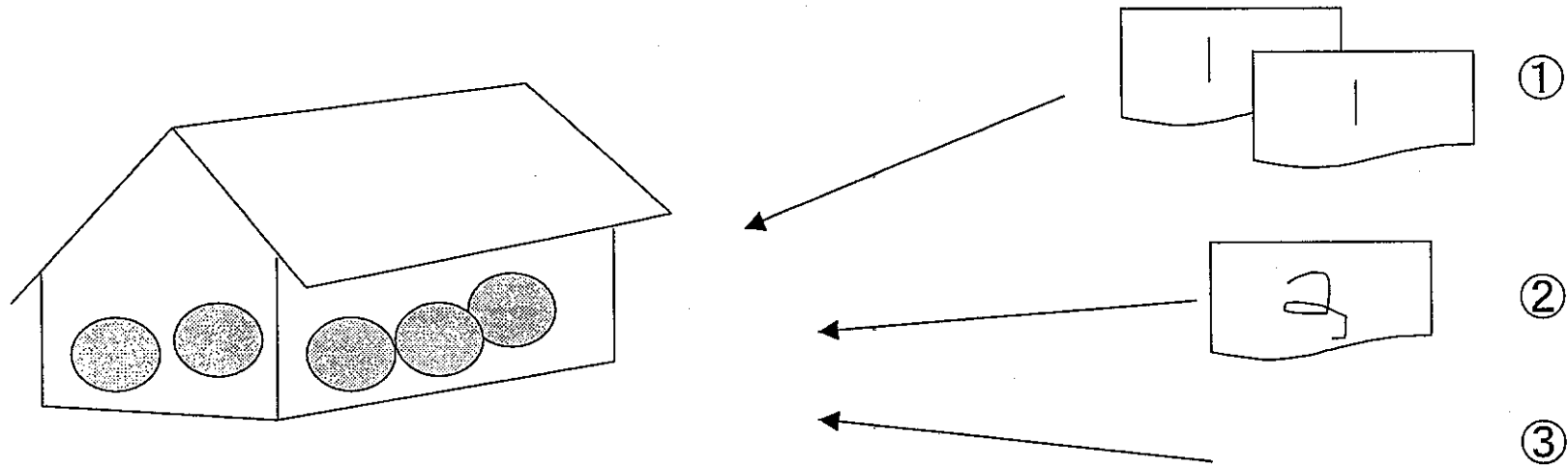
不正による 誤った財務情報の提供

- エンロン、ワールドコム
 - 損失取引の子会社のつけかえ 1、300億円
 - 費用の資産計上 4、500億円
- 国内企業
 - ITを利用して架空取引を期末日近くに生成

過失による誤った情報の提供

- 誤請求インターネットで検索 3735件
 - 2004年4月 通信会社 1,346万円 2038年問題 基盤
 - 2005年3月 通信会社 4,003万 プログラムミス
- 誤った株式売買申し込み
 - 外資系の金融機関が桁数を誤って取引所に発注

評価の視点



倉庫の出荷指図

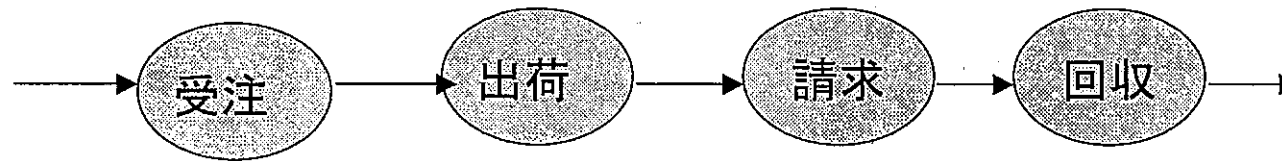
①完全性 もれ、重複

②正確性 誤った処理

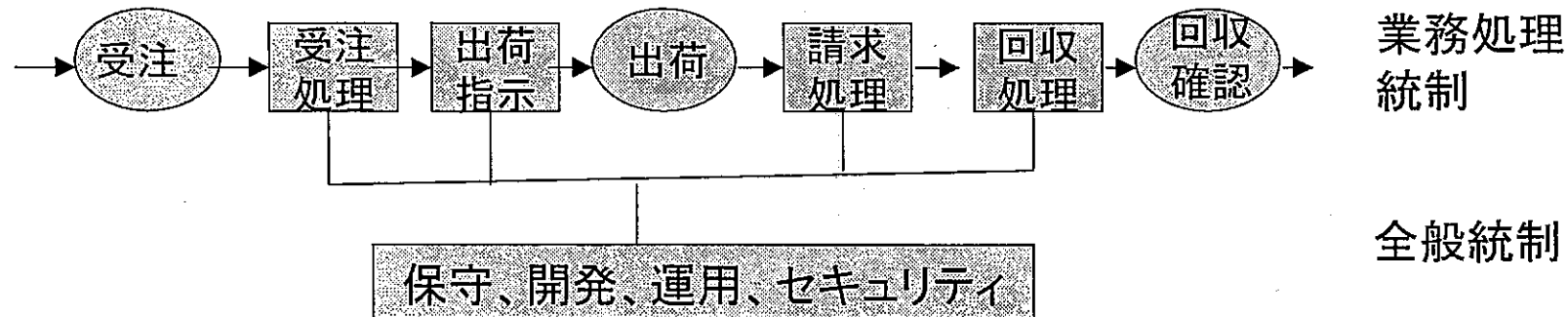
③正当性 不当な処理

CONVERGENCEとしての IT統制の監査

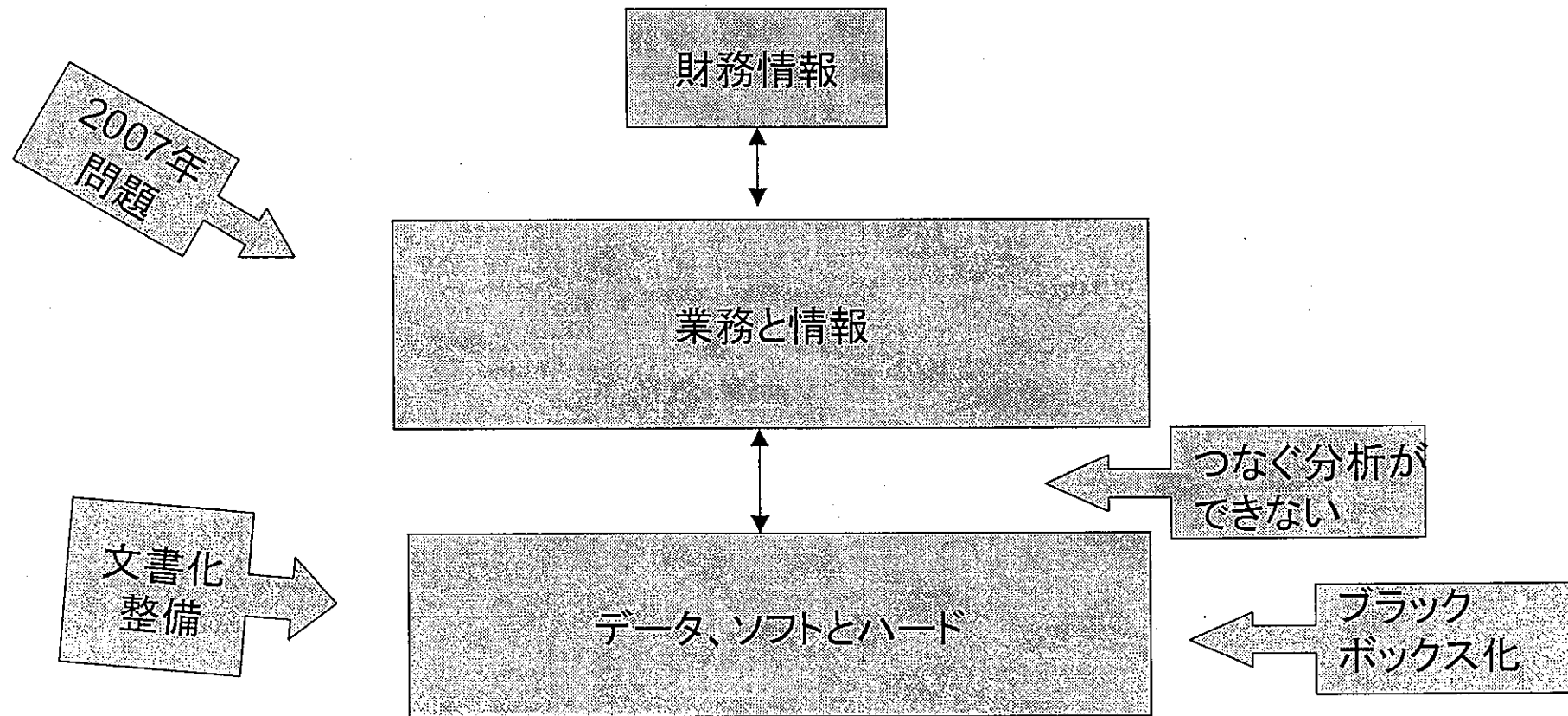
従来の手作業のみの世界



IT導入後



わが国のIT統制の課題



わが国企業のビジネス環境の変化

- インターネット等の情報技術の利用範囲の拡大
 - 内部業務を資本関係のない外部業者にネットワークを介して開放する運用が急速に増加する傾向にある
 - 製造業の原料調達
 - 小売のフランチャイズ
 - 保険の代理店等
 - 情報の信頼性のコントロールの重要性がより高くなってきている

わが国の監査の現状

- 監査基準にITの評価の必要性が明確に示され
 - 大手監査法人はPCAOB対応もふくめて重要課題となっている
 - 中小法人への手当が始まった
- しかし
 - 真剣にとりくむ層の拡大が課題
 - 会計士試験の要綱には一行、実施基準のなかに情報技術の影響を考慮することと示されているだけ

ポイント

- ITアレルギーから取り組みのおくれるIT統制の監査を強化するため
- 日本企業のITに関わる統制のレベルをたかめるため
- IT統制をひとつの重要な内部統制の構成要素と位置づける